

春・出会い

春は別れの季節であると同時に出会いの時でもあります。新入生240名と15名の教職員を迎え、新たな気持ちで2020年度が始まりました。昨年度末から続くコロナウイルスの影響により、学校の授業や行事に様々な影響が出ています。今年度もウイルス感染を危惧しながら通常の学校生活ができない場面も想定されますが、新しい出会いを大切に、互いに良い影響を与え合う関係を築いていきましょう。

新入生の皆さん、新たな学びが始まります。

与えられた課題に積極的に取り組む「自主性」はもとより、今後は自ら課題を見つけて取り組んでいく姿勢、「主体性」が求められます。

大学進学においては各教科の高い達成が必要となりますが、興味のある分野を教科としてではなく、学問として学んでいくことも大切なことです。それが、進路の選択にもつながっていきます。是非、興味ある分野の様々な知識を吸収し考え、学問として学んでいってください。

2年生・3年生は昨年度の自らの成長を確かめ、新たな課題を見つけて次のステージへ進む時です。進路実現に向けて生活面・学習面の自己管理を怠らず、計画的な姿勢で臨んでください。

限られた時間の中で

人生は言うまでも無く、「限られた時間の中で」生きています。この世に生を受けたと同時に、終わりへのカウントダウンが始まっています。これからの人生の中で、「今」がもっとも若い瞬間です。今日より若い日はありません。その一番若い日の積み重ねを大切に、目標を定めて積極的に挑戦していきましょう。

「では、皆さんは何を目標にしていますか？」

差し迫る進学でしょうか。そのための受験勉強は当然ですが、具体的な進路以外にこれからの長い人生のために**人間性を向上させていくことを目標**にしてほしいと思います。様々な学びもその土台となる人間性無くしては、人生や社会に活かしていくことができません。

その人間性を高めるためには、**教養は欠かせない**ものです。高い教養を身に付けて、深みと味わいのあるレベルの高い人となり、周りの人と接することで良い影響を与えることも目標としてほしいと思います。

人間性を高めていく学びを意識して追求する中で、本当に自分が学びたいことややりたいことが見付き、そこには必ず**使命感も生まれてくる**でしょう。

人間性を高めることは、結果的に誰かの役に立てることになります。そして、それは誰かを幸せにするということですから、「志」も生まれてきます。その「志」というものには強いエネルギーがあり、周りのために行動する人のエネルギーはとて強いものです。

人間性を向上させる学び、「今」を繰り返すことで、「志（自分の進むべき道）」も明確になってくるでしょう。

昨年の3学期始業式で校長先生が、「君たちが今ここに存在するのは、親から遡り平安時代まで²⁰、つまり200万人以上の祖先の努力があるからこそ」といった内容を述べられました。それぞれ遡った世代の親二人を考えると、その数は何十倍となり、限られた時間の中で脈々と続いてきた世代の人々の願いが皆さんには受け継がれてきています。

周りの人々を幸せにする「志」を持つためにも、「今」できる学びの積み重ねに挑戦して行きましょう。

新しい時代に求められる教養

教養については、昨年の指導室の窓からでジャーナリストの池上彰氏が述べた「すぐには使えない知識が教養である」と紹介しました。普遍性を持つ徳性を土台としてそれぞれの時代にあった教養を身に付けなければいけません。文科省中央教育審議会答申（H24.2/24）で身に付けたい「新しい時代」の教養について次のように述べています。要約して紹介します。

- ・主体性ある人間として向上心や志を持って生き、より良い新しい時代の創造に向かって行動することができる力、他者の立場に立って考えることができる想像力。
- ・他者や異文化、更にはその背景にある宗教を理解し、我が国の伝統や文化、歴史等に対する理解を深め、互いに尊重し合うことのできる資質・態度。
- ・自然や物の成り立ちを理解し、論理的に対処する能力を身に付けるとともに、科学技術をめぐる倫理的な課題や環境問題なども含めた科学技術の功罪両面についての正確な理解力や判断力。
- ・日本人としてのアイデンティティの確立と豊かな情緒や感性のため、普遍的な教養・表現力の根源である国語力。
- ・思考や行動の規範となり、教養の基盤を形成している我が国の生活文化や伝統文化の価値を見つめ、礼儀・作法をはじめとして型から入ることによって、身体感覚として身に付けられる「修養的教養」。

「君子は義に喩り小人は利に喩る」

（くんしはぎにさとりしょうじんはりにさとる）

この言葉は、孔子の「論語」に書かれている一節です。

君子とは学問もある人格者で、小人とはまだまだこれから努力の必要な人のことです。

君子は物事を判断するときに、それが正しい道（正義）かどうかで考え判断し、小人はまず自分の利益が得られるかどうかで物事を判断する、という意味です。

また、「論語」には、「利」という言葉が何度も使われています。「利によって行えば怨み多し」。すなわち、行動が常に利益と結びついている人間は、「目の前に利益がぶら下がっていても義を踏み外さない」ことを、その条件の一つに挙げています。

人の心は弱いので、つい目先の利益で物事を判断してしまいがちです。

例えば「誰かが誰かに嫌な事を言っている。でも自分の事ではないから関係ない」、「自転車置き場にゴミが落ちている。でも、自分が捨てたゴミではないから関係ない」、「教室にロッカーの整理整頓ができていない。でも、自分のロッカーではないから関係ない」・・・、自分にとって関係ない学校内の出来事は他人事。

ここで昨年度の卒業式後の出来事を紹介します。

例年、卒業式の会場準備と片付けなどは多くの在校生が担当箇所を決められて行っていますが、昨年度の卒業式はコロナウイルス感染予防のために職員のみで会場などの準備が進められ、式も卒業生とその保護者のみの参加や短縮など、心残りの多いものとなってしまいました。そんな卒業式だったにもかかわらず、終了後、体育館の広い会場を職員で片付けをしていたところ、その様子を見ていた卒業式を終えたばかりの卒業生たちが自ら片付けに参加していました。祝ってもらう側の主役が進んで手伝いをしている姿を見て、「きっと彼らは周りの人たちを大切に、社会で活躍していきましょう」と感じました。

優れた人は、あらゆる物事を正しい道に合うかどうかを基準として考えて行動します。

教養や道徳心に欠ける人間は、どうしたら自分の利益を得られるかを基準として考えて行動しがちです。その人の周りには、おそらく利害関係でしか結びつかない人間関係となるでしょう。

どちらが周りからの信頼を得られるかは明白ですね。

校長先生が昨年のとある日の職員朝礼で、教員に対して「学校内の違和感を持つ場面を放置しないように」と連絡されたことがあります。その「違和感」を持つかどうかは、それぞれの常識的な問題ですが、一人一人が人を含めた学校環境を大切にする気持ちを持つことで、違和感を持ち、放置しない姿勢ができていくこととなります。そして、それが信頼へとつながっていきます。